

變化を司り(何處の那伽も同様である)、時折怒つて恐ろしい洪水を起し、迦膩色迦王が山麓に建てさせた僧坊や塔などを六度までも破壊したので、王は部下衆兵を率ゐて親征の事に當り、その湖を埋め潰して惡龍を平け、又々建立させたもので、法師が巡拜の時に残つてゐたものは七回目に建てられたものであつたと云ふことである……此の傳説を聞いて、探求者の先づ爲すべきことは謂ふまでもなく、前記の方角に湖水と塔 (Tōpe) の有無を土地の人々に訊くことであるが、パンガーン Panghān 山脈の上にも、又カピシヤ地方と高いパンヂール谿谷との境になる山脈中にも湖水のあることは事實である。尤も此の湖水は孰れもベグラームの西北には當つてゐない。又迦膩色迦王が軍に従つた諸兵に各、一石を運ばしめて惡龍の隠れ場と考へられてゐた湖水を埋め潰したと云ふことを事實と考ふべきものであらうか。少くともパンガーン山取付きの斜面にあるトープダラ Tope-Darrāh と云ふ谷間に、土地の人々が言下に指示する「塔」がある。此の「塔」の位置は事實ベグラームの西方(西北ではない)にあるチャリカール Tcharikar 附近で、法師の示す距離と方角とはそれよりも寧